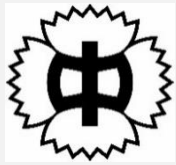


大宮小&済美小&大宮中 夢のタスキを9年間つなぎます！



なでしこ

東京都杉並区立大宮中学校 学校だより

令和2年10月30日 第14号(19-37)

発行責任者：校長 関田 誠

『大宮中精神：優しさをもって、夢や目標に挑戦する若者であれ！』

10/12（月）朝礼講話 『コロナに感染する不安とは…』の話 ～『不安』は周囲からの攻撃や差別～

トランプ大統領が、大統領選終盤にコロナに感染しましたね。対立候補のバイデン氏は、大統領の入院中にネガティブキャンペーンを中止しました。討論会では悪口合戦に必死な二人ですが、病気の人を鞭打つ行為はフェアプレイではないという理由です。

私は、時々（自分がコロナに感染したらどうなるか？）と考えます。幸い本校では、学校関係者にコロナ陽性者は出ていません。毎日学校に集う人が二百人以上いますから、その数倍、ざっと千人近い関係者数です。陽性者が出なかったのは単に『運』が良かっただけ…。そう考えると、最初は自分かもしれない。そう思いませんか？

こんなデータがあります。世田谷区の国立成育医療研究センターが、6、7月に小中高校生千人にとったアンケートです。『もし自分や家族がコロナになったら、秘密にしたい』が32%。『コロナになった人とは、コロナが治っても、あまり一緒には遊びたくない』が22%の回答でした。皆さん、今ここで想像してみましょ

う。（朝からどうも体調が悪い。午後から医者に行ってPCR検査を受けた。コロナ陽性反応が出た、えっマジか？）と。通常の病気の場合（早く治さなきゃ。早く治して学校に行きたい）と考えます。でも、コロナの場合、別の考えが浮かびます。（他人に知られたくない。仲間外れや、いじめられないか。）私の場合だったら、

（校長がコロナってどうよ？自己管理、駄目じゃん。生徒や保護者、先生や教育委員会から何を言われるやら…ハア。）とかね（笑）。

こうした気持ちは、一言で表すと『不安』です。病気が治るのかという本来の不安に加えて、感染した自分がどう思われるかという不安です。これはコロナ感染を、まるで悪いことをしたように、責めたり悪口を言ったりする人がいるからです。コロナに対する不安な気持ちが、他人への攻撃から『差別』につなげてしまう人間の悲しい心理です。でも、これを打ち破るのが、大宮中の『優しさ』と『挑戦』です。『優しさ』。にんべんに憂うと書いて『優』。仲間のコロナの病状を、（大丈夫かな）と心配する、回復して登校したら、「よく頑張ったね」と気にかける優しさです。病気の人、回復した人をホッとさせる安心な大宮中の挑戦です。まだ一人目が出ていない大宮中の今こそその心がけです。日頃から同学年、他学年の生徒同士、コロナをネタに、あるいは違うことも含めて、人を悪口で『弄るな』、『嫌がらせするな』、『いじめるな』、それはフェアプレイじゃない、ですね。『人で遊ぶな、人と遊べ』が当たり前の大宮中であってほしい。

現在大宮中では、健康観察表を朝の登校時に教室で提出する方式に代えました。観察表を忘れて教室に入るのは、危険な行為でアウトです。お互いの安心を守り合いましょう。😊



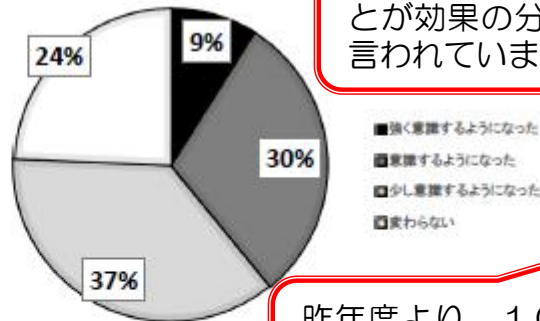
DOノートの活用アンケートの分析結果

一学期末に実施したアンケートの分析結果が、(株)フォーサイトから送られてきました。導入二年目となりますが、昨年度との比較も含め、次のような結果となりました。

1. 時間を意識するようになりましたか

75%の生徒が時間を意識するようになっています。

昨年度は68%。意識の向上が見られます。

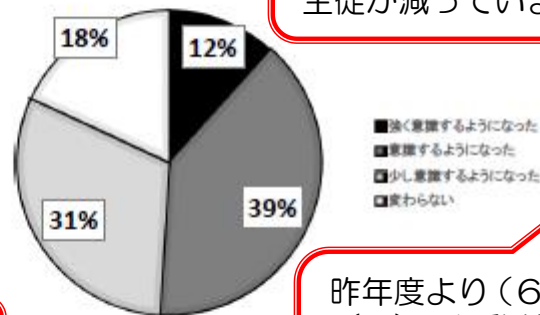


一日3回以上開くことが効果の分岐点とされています。

2. 計画を立てることを意識するようになりましたか

81%の生徒が計画を立てることを意識するようになっています。

昨年度は73%。意識の向上が見られます。

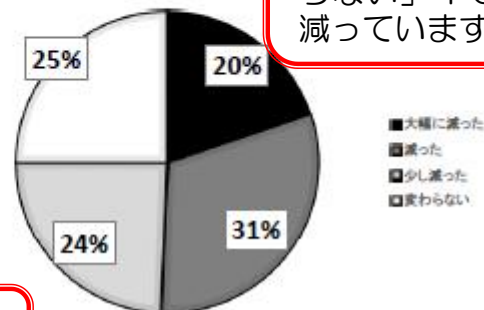


昨年度より、10%ほど「変わらない」意識の生徒が減っています。

3. 忘れ物が減りましたか

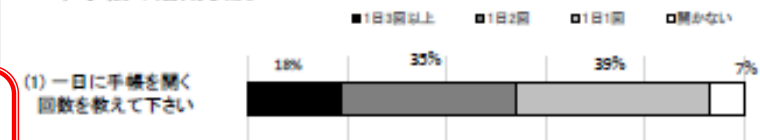
75%の生徒が忘れ物が減ったと答えています。

昨年度は64%でした。忘れ物が減っています。

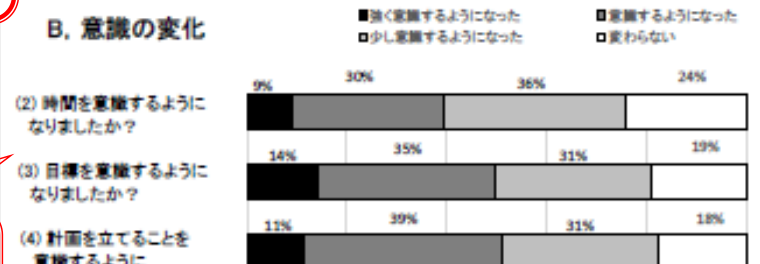


フォーサイト手帳効果見える化レポート

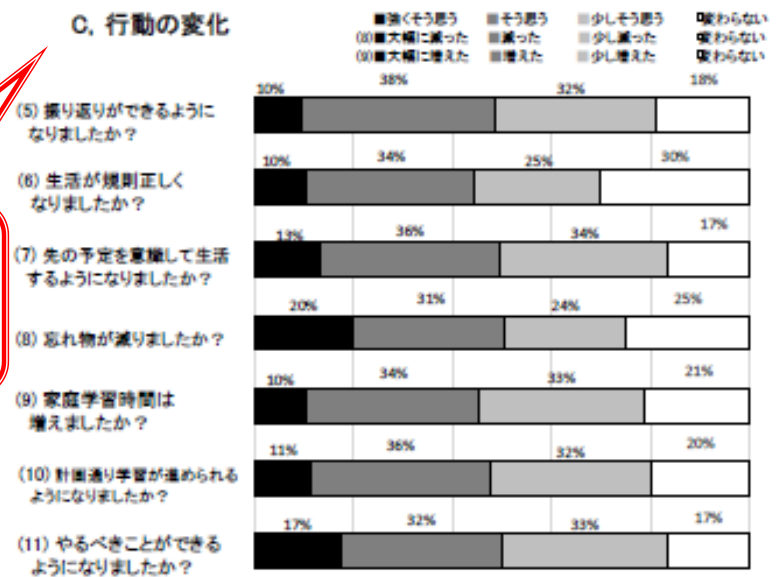
A. 手帳の活用状況



B. 意識の変化

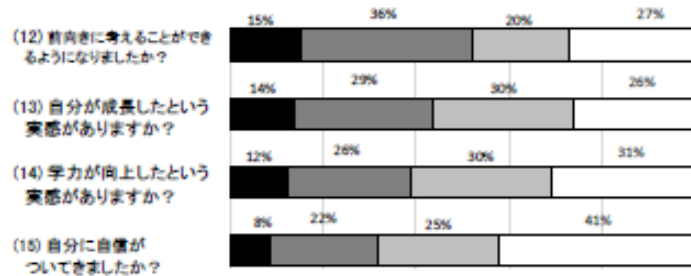


C. 行動の変化



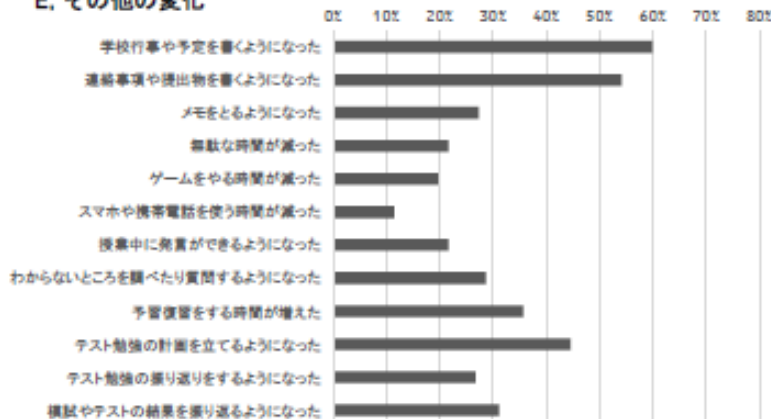
D. 自己肯定感の変化

■強く思う ■思う ■少し思う □変わらない



昨年度より「学力が向上した」実感が10%の増加！

E. その他の変化



活用すれば伸びることに気づいてほしい。もどかしさも…。

コロナ禍による、予期せぬ三ヶ月の休校がありました。大宮中生の意識と行動の変化を見て、D O ノートを昨年度に導入した結果、休校期間の自学自習の取組の支えになった生徒が多かった様子です。今後の課題として、連絡帳としての活用にとどまっている生徒の意識を変えることができるか、要するに活用の個人差の大きさの解消が挙げられます。

【手帳活用のアワード校として表彰されました】



家庭学習が増えましたが全国トップテンはびっくり 頑張ってますね！



包丁を振り回したり、幻覚に錯乱している姿です。

土曜授業で俳優の内谷正文さんをお招きして、体育館で薬物乱用防止教室を実施しました。内谷さんは、ご自身が16歳の頃から、シンナーやマリファナの薬物依存の経験をもち、その影響で実弟も重度の薬物依存症になってしまい、家庭崩壊に陥ったどん底の経験があります。現在は、俳優・映画制作の傍ら、全国の中・高校等で、実体験を一人芝居とトークで薬物依存の怖さを伝えています。大宮中の生徒の脳裏に、『ストップ薬物！』が焼き付いてくれることを願います。

コロナ禍の中で、今年度はステージ上に議長席、役員・委員長席を設けて実施しました。恒例の新旧委員会委員長の引き継ぎの握手もありません。旧本部役員・専門委員さんご苦労様。新本部役員・委員さんよろしく！



運動会全体スローガン

「濃(NO)密 不撓不屈の闘志を燃やせ」

今年度は秋の運動会です。当日は曇りのち晴れのスポーツに最適の涼しい気候でした。コロナ禍の影響で、午前中半日で、ギュッと詰め込んで実施しました。

運動会実行委員会は、しゃれたスローガン考えたものです。NO密の中で、紅白の競い合いを通して、濃縮した時間で仲間との濃密な絆を創ろう、ということです。



朝の開会式では入場行進は省略して、ラジオ体操間隔で行いました。競技は走る個人種目、各種リレー競技、三つの学年種目等を実施しました。いずれも見応えのある内容でした。当日は、のべ270名の参観（2名上限）をいただきました。感謝いたします。参観者は、応援は声を出さずに、拍手や手拍子、どよめきで大宮中生の心を奮い立たせていました。閉会式では、赤組の優勝とC組の敢闘賞を讃えました。

